

雑録, 正誤

| | |
|-------|--|
| メタデータ | 言語: Japanese 出版者: 公開日: 2019-11-14 キーワード: 作成者: 植物地理・分類研究会, The Society for the Study of Phytogeography and Taxonomy, メールアドレス: 所属: |
| URL | http://hdl.handle.net/2297/00056094 |

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



第 35 巻完結に当り

第 35 巻 2 号を、記念号として計画致しましたところ、多数の方より御投稿下さいまして、ここに第 35 巻を完結することが出来ました。

こころみに、第 1 巻より第 34 巻までの会費の収入を表にしてみました。年を追って増加して来た状況から、本会の発展の様子を知ることができようかと存じます。

| 巻 | 会費収入額 円 |
|--------|------------|
| 第 1 巻 | 15,843 |
| 第 2 巻 | 21,368 |
| 第 3 巻 | 31,578 |
| 第 4 巻 | 27,615 |
| 第 5 巻 | 56,615 |
| 第 6 巻 | 64,319 |
| 第 7 巻 | 99,775 |
| 第 8 巻 | 104,346 |
| 第 9 巻 | 90,164 |
| 第 10 巻 | 140,459 |
| 第 11 巻 | 125,023 |
| 第 12 巻 | 207,770 |

| 巻 | 会費収入額 円 |
|--------|------------|
| 第 13 巻 | 148,445 |
| 第 14 巻 | 235,405 |
| 第 15 巻 | 227,500 |
| 第 16 巻 | 261,582 |
| 第 17 巻 | 373,963 |
| 第 18 巻 | 262,282 |
| 第 19 巻 | 396,144 |
| 第 20 巻 | 500,853 |
| 第 21 巻 | 385,700 |
| 第 22 巻 | 598,820 |
| 第 23 巻 | 648,880 |
| 第 24 巻 | 771,205 |

| 巻 | 会費収入額 円 |
|--------|------------|
| 第 25 巻 | 1,278,725 |
| 第 26 巻 | 908,150 |
| 第 27 巻 | 1,213,690 |
| 第 28 巻 | 834,835 |
| 第 29 巻 | 1,749,720 |
| 第 30 巻 | 1,506,245 |
| 第 31 巻 | 1,553,550 |
| 第 32 巻 | 1,494,340 |
| 第 33 巻 | 1,952,700 |
| 第 34 巻 | 2,082,540 |

私としましては、これまでよく継続できたものと、感慨無量ですが、これについては、ひとえに会員の方々の御支援によるものであり、深甚なる謝意を表する次第でございます。

今後も勿論、益々発展することを願って居りますが、私は、来春、金沢大学を定年退官する年齢となり、これまで通りの会務全般を処理する能力に限界を感じて居ります。したがって、この機会に、今後の運営につき、段階的に引退させていただき所存でございますが、50 巻また 100 巻まで引続いて刊行されることを念願とするもので、本誌の発行に相変らぬ御厚情を賜わりたく、伏して懇願申し上げます。

昭和 62 年 12 月 15 日

編集委員代表 金沢大学教授
里見信生

運命のものと考えられる。

坂手から田浦の半島南岸は断崖が多く掘越漁港のところに生育し、北海岸は田浦までダンチクが生えている。大角島の半島は西は急斜面となり、海岸近くまで雑木が繁りダンチクの生育する余地がない。この東海岸から福田の北の藤崎にかけては断崖や山の急斜面が海に迫りダンチクの生育を拒否している。ところどころ漁港（橋、岩ヶ谷、当浜、吉田）があるが、人家が多く人工の手が入りすぎている。

内海町藤崎から土庄町大部にかけては採石場が多く海岸線は人工の手が入り変化している。

また、小豆島の各河川は二級河川で、どの河川も人工の手が加わっている。すなわち河川敷きはコンクリートまたは人工の手で作られた石で敷き詰められ、コンクリートによる護岸工事が施されている。もしダンチクが生えていたとしても、この工事のさいに除去されたであろう。

以上のような理由により、小豆島のダンチクの分布が、淡路島と異なり偏在しているわけである。

小豆島のダンチク潜在分布

現在のダンチクの分布からみて、潜在的な小豆島におけるダンチクの分布は、海岸の断崖や海に迫った山林地帯を除き、全島周辺に及ぶものと考えられる。なお、各河川は標高70—100mまでの内陸部までダンチクは生育しているものと思われる。

すなわち、各河川は四季を通じ潮風が吹つける条件である。土庄町の伝法川と内海町の安田大川を除き他の各河川は急峻な山へと続くため、内陸部といっても海岸からせいぜい200—500m前後までである。伝法川は、満潮時に200—300m内陸部に浸水するため、この河川についてはそうとう奥地（約2000—3000m）までダンチクが生育していたものと考えられる（Fig. 2）。

要 約

1. 現在の小豆島におけるダンチクの分布は、土庄町の北西部の海岸、池田町の三都半島、内海町の古江から田浦の半島と偏在している。
2. 各河川は改修され、河川敷きも堤防もすべて人工の手がはいる、ここにあったダンチクは除去されたものと思われる。
3. 東海岸は断崖絶壁が多くダンチクの生育しにく

い条件となり、北海岸の東は採石場が多く海岸地帯は人工の手の加わった海浜となりダンチクは見られない。

4. 小豆島のダンチクの潜在分布は、断崖を除き全島の海岸に及んでいたものと考えられる。また、各河川に沿い、200—500m、伝法川では2000—3000mも内陸部にまで生育していたと思われる。

参考文献

- HONDA, M. 1930. Monographia Poacerum Japonicarum. p. 119-122 Tokyo.
 HORIKAWA, Y. 1972. Atlas of Japanese Flora. Gakken Co. Ltd. Tokyo.
 大井次三郎. 1975. 日本植物誌. 151pp. 東京, 至文堂.
 藤本義昭. 1987. 兵庫県下のダンチクの分布. (故中西哲追悼論文集に投稿中)

Summary

1. In Shoudoshima Island, the distribution of *Arundo donax* is at present confined to the northwestern seaside of Tonosho-cho, the Mito Peninsula of Ikeda-cho and the Uchinomi-cho Peninsula from Furue to Taura.

2. Every river has been modified by human activity, especially river beds and banks. Thus, most of the *Arundo donax* populations growing in Shoudoshima in the past seems to have been destroyed.

3. The eastern seaside of Shoudoshima appears to be not suitable for growth of *Arundo donax* because of the many overhanging cliffs. The east of the northern seaside has many good stone pits (quarries), and there are some artificial beaches on the shore. But *Arundo donax* is no longer seen there.

4. The potential distribution of *Arundo donax* was all along the seashores of Shoudoshima, except on the cliff regions. It also seems that *Arundo donax* grew 200-500m inland along each river from its mouth. In the case of the Dempo River. It was probably seen 2000-3000m inland.

(Received July 5, 1987)

正 誤

Vol. XXXV. No. 1, p.41, 左, フナシホタルブクロの写真は上下を反転する。

Vol. XXXV. No. 1, p.62, 上から8行目 会務興告→会務報告

Vol. XXXV. No. 1, p.62, 下から12行目 豊岡→豊国